

# 大阪・関西万博開催に向けた御意見

御所属 劇団・快快/三月企画主宰御名前 野上 絹代 様

## 1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

- 是非見たい(体験したい)・・・物体や身体を感じさせるもの、生きている(た)という実感・存在している(た)という実感を感じさせるもの。誰かとコミュニケーションを取りたくなるもの。
  - 技術の進歩によって物体や身体を伴わなくても様々なことを済ませることができる時代になっており、演劇のような、ある種の制限があるものを目の前にした時に感じる高ぶりが失われていくのが心配である。それを体験することができるような機会になればよい。
- 興味がない・・・利便性や効率を重視した資本主義丸出しのコンテンツはやめてほしい。例えば、「技術革新」などとうたって、最新のテクノロジーだけ見せて、あるいはそれをアートと呼んで、アニメーションや萌えキャラなどを使い商売っ気をちらつかせているようなものは見たくない(もう見飽きてしまった)。
- 私たち自身が、身体性や物体性を意識できるような取り組みが必要だと考えている。プリミティブな方向の良さを発見できるような技術があればよいのではないかと考えている。
- 技術の進歩は頭打ちになりつつあるのではないかと考えている。技術革新の一方で、失われているものにも注目しなければならない。
- 人が目の前にいて、話をするということが尊いのではないかと考えている。文字だけよりも、対面のコミュニケーションの方が情報量は断然多い。相手が何を感じ、どのような思いで、その言葉を発しているのか。技術によって、そうした手触りが面白いと再認識できるような機会になればよいのではないかと考えている。
- 現代は無駄を排除する方向に世界が向かっているが、人間と関わってみると無駄ばかりである。無駄が実は宝の宝庫であると考えている。例えば、音楽は実際に聞かなければわからないから、昔はジャケ買いをしていた。今はアップルストアで目的を持って、楽曲を購入する。テレビをダラダラと見ることも減り、ネットで目的の番組を観るようになっている。こうした社会では自分が意図していないものに出会う機会が少ないと考えている。論理的な話ではないかもしれないが、こうした社会において、無駄なことをあえてするというのが面白いのではないかと考えている。
- 技術革新によって、様々な仕事の無人化・自動化が進んだ後、働いていた人々はどこで何をするのが気になっている。労働がロボットに取って代わられた後、体を使って何ができるのか。万博のテーマでもある、「生きがい」をどこで得るようになるのかということをよく考えている。

## 2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs 達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

- 問題を提示し議論（コミュニケーション）できるような場を提供できるといい。例えば「最先端技術、すごいでしょ?」「うん、すごい!」というのは非常につまらないので、何か、今現在技術が向かっている方向性の行く末の良し悪しを両方提示してくれるような、そしてそれに対する意見が面白い形（最新のテクノロジーを使って）で議論し合うのを見ながらまた意見し合うなど。
  - とはいえ、大真面目にそれをやろうとするとすごく鬱陶しいので、軽やかにユーモアの力を利用できるといい。
  - あとは、技術が物体や身体を伴わない方向に向かっているように感じるので、むしろ、その二つを感じられるようなコンテンツがあるといい。
- バーチャルでなくとも、「万博ラジオ」を放送し、言葉でどれだけ伝えることができるのか取り組むコンテンツを作るのもよいのではないかと考えている。
- 現代は分業制の世の中である。パソコンで仕事をする人がいる一方、現場で食肉に携わる人もいる。昔は生活に関わることはすべて体を動かして行っていた。大阪・関西万博は、自分たちの生活がどのように成り立っているのかを身体で体験できるような機会とするのがよいのではないか。例えば、パビリオンで労働をすれば、その対価として食事等ができるようなシステムを作るのもよいのではないか。

## 3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

(例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等)

- 広場・・・人々が集まって座りたくなるような場が欲しい。
  - 昔は映画館の前に広場があり、見た映画について議論や意見交換をしていた。今の時代では、そのような広場をどのくらい活用できるのか。そこに「とりあえず溜まる」ということができなくなっている。何かを見た後に、どこかに残って誰かと話す。直接のやり取りではなくても、どこかに意見が溜まり、それを誰もが見ることができて、関わりを持つことができるような場を作ることができればよい。

## 4. そのほか、御自由に御意見をお願いします。